

基本目標	基本方向	掲載ページ
I ジェンダー平等の意識向上	1 ジェンダー平等の意識の形成 2 ジェンダー平等教育の促進、充実	1～21
<p>ジェンダー平等の意識向上の根幹を成す啓発については、様々な機会を捉えること、対象者を絞ること、内容の充実など、手段に更なる工夫が必要。</p> <p>○古賀市は、学校教育において、「いのちのノート」を全小中学校において編集して校区ごとに実践の検証、情報を共有しているので学校間格差が生じないので学校間連携を継続してほしい。</p> <p>○メディア講座や「だいじな命」教育など、男女共同参画の主旨を意識した内容になっていたのか不明なものが散見されます。</p> <p>○「保護者に対するジェンダー平等についての啓発」の具体的施策に対して、保育参観で子どもの成長を実感してもらったという成果は噛み合っていないと思います。</p> <p>○SNS等でさまざまな情報があふれかえっている中でメディアリテラシーを高めていくことは早急かつ重要事項だと思います。</p> <p>○それぞれの時代で子育ての重要視される部分など変化してきている中、共働きの家庭も増えているので「専門家から学ぶ子育て」のような講座は積極的に開催してほしいと思います。</p> <p>○「課題」●来場者増のために・・・工夫をしていく必要がある→繰り返さずに改善して欲しい。</p> <p>○全体的に内容がよくわからないことが多くて、評価に困りました。</p> <p>○一行詩の募集を事業として継続する意義を感じている。その中で、今年は件数の伸び悩みを感じた。委員会で委員から意見があったように、看護大学生の参画も検討する必要があると感じた。また、老人会や婦人会、自治会、公民館活動などの、各団体からの募集もはかると、もう少し多くの市民の参加で男女共同参画について考える機会になるのではないかと考えた。</p> <p>話題にする機会をいかに増やすか、市民生活の中で考えを表出する機会をよりおおくすることこそが、この課題の状況改善に必要なのではないかと考える。</p> <p>○ジェンダー平等意識の向上に向けては、根幹を成すものが啓発と考えます。令和13年度の目標に向けて令和5年度は啓発の回数・参加数は一定程度集めているが、もう一工夫して増やしてほしい。</p> <p>○男女共同参画フォーラムに参加しました。一行詩や輝きKOGSびとの表彰は、市民の皆さんのジェンダー平等意識の啓発に大きく貢献していると考えます。応募した人表彰された人、参加した人が啓発の起点になると考えます。是非、継続してください。大学生の応募もお願いしたい。講演は、中島先生の講話はとても分かりやすく、先生の人柄、多くの人がよりよく生きるためのヒントが多くありました。講師の選定は、良いと思いました。</p> <p>○まちづくり出前講座、行政区長会人権問題研修会、デートDV防止講座は、リーパスプラザに行かなくてもよいので、参加者の拡大につながる市民啓発の大切な手法だと考える。</p> <p>○広報紙への掲載は、毎月読んでいるが、人権認識の啓発に寄与している。</p> <p>著名な方のセミナーや話題となっていた映画の上映は様々な世代が参加しやすくていいと思います。</p> <p>○図書・視聴覚資料の収集と提供と特別展示は、とてもいいと思います。</p>		

基本目標	基本方向	掲載ページ
Ⅱ あらゆる分野における男女共同参画の実現	1 施策・方針決定過程への女性参画の拡大 2 就労の場における男女共同参画と女性の活躍の促進 3 家庭生活、地域活動等における男女共同参画の促進 4 国際的視野に立った男女共同参画の促進	22～55

少子高齢化社会が進む中、地域活動における女性参画がさらに重要になる。女性の参画が促進される具体的な取組が必要では。

- 分館長女性委嘱は6名、13%。女性分館長を広げる活動をどのようにしてきたのか。これからの取組も教えてほしい。事業内容があまりにも簡素すぎる。
- 地域包括支援センターの相談業務は、相談が増えている。支援センターが認知されているのは成果だと思う。しかし、地域包括支援センターの名前は聞いたことはあるが、事業の内容を知らない市民は多い。民生委員などその分野の方は知っているが一般市民への周知・啓発を検討して欲しい。
- 子どもの場合は男女同数もしくは男子の応募が多いことからこれから生きる世代には男女の区別なくできることが多いということを伝えやすいのではないかと思う。
- 専門知識を有する者に女性が少ないことが要因・・・改善案が必要と思う。
- ジェンダーギャップ指数・アンコンシャスバイアスが、一瞬ピンとこなかったが、検索して「あ、これか」とわかった。一言説明がほしい。そのうち誰もがピンとくるようになると思う。最近横文字でピンと来ない難しい言葉が、男女がどうという場面で出てくることが多いと思う。あえて、テーマとして取り上げて、意味を分かるのと同時に男女共同参画が、自然に馴染んでいけばと思います。女性の資格取得やスキルアップの機会やチャンスを職場で提供して欲しい。
- 地域活動の中での女性役員が変わらず低いことが気になっています。今後、少子高齢化社会がますます進展する中で、地域共生社会を構築するには、女性の参画は大変重要だと考えます。女性は裏方での活動に参画されているかも分かりませんが、女性の参画を促す支援が必要だと考えます。
- 中高年と女性の就職セミナーは、女性への再就職を行政が支援する力強い事業だと思う。
- 基本目標Ⅱの各項目については、計画通りに取り組みができていない項目が多いと感じますし、達成できていない場合は、その理由・原因が考察されているので問題ないと思います。
- 性別を限定しない講座で少数であっても参加して欲しい側（料理教室の場合は男性）の参加があったことは良いことだと思います。
- 経営セミナーを12回開催し・・・→詳細は不明だかよかったと思う。
- 性別を限定せず募集→クッキングなどは誰でも参加できるのが好ましいと思う。

基本目標	基本方向	掲載ページ
Ⅲ 男女の自立と社会参画に向けた環境整備	1 ワーク・ライフ・バランスの確立と社会参画への支援	56～85
	2 生涯を通じた健康管理への支援	
<p>男女が共に自立した社会参画ができるよう、継続、計画的に取り組むと共に、更なる工夫が必要では。</p> <p>○青少年への性教育も線引きが難しい部分もありますが、情報があふれている現代では、学校で正しい知識をつけることで自己防衛につながると思います。</p> <p>○「男女がともに」とあるが、お互いにどういった配慮が必要か等、工夫する事に目を向けたらいいと思う。</p> <p>○ひとり親家庭は、男女比にこだわらず、支援していただきたい。</p> <p>○〔課題〕の各がん検診とも受診率が低迷→工夫が必要と思う。</p> <p>○世界女性デーの展示は毎年盛大にやって欲しいと思う。</p> <p>○市内4小学校の5～6年生と1中学校の全生徒が講義を受けた→ぜひ全中学校でやっていただきたいと思う。</p> <p>○リーパスカレッジの講座に参加したが、高齢期を送るための学習機会の提供として最適だと感じた。多くの参加者が新しい知識・興味関心を向上させている。 また、健康増進にもつながっている。男女とも多くの皆さんが思いやりの心をもって接していた。</p> <p>○セミナー等で募集する際に性別に関わらず参加できることは良いと思います。</p>		

基本目標	基本方向	掲載ページ
Ⅳ あらゆる暴力の根絶と被害者支援	1 あらゆる暴力の根絶と被害者支援	86～103
<p>DVの認識を高めるため、啓発を行う必要があるのでは。</p> <p>○DV・ハラスメントと聞くと 男性→女性のイメージが強い（実際には多いと思う）が、女性→男性の場合もあり、その場合 女性→男性とは違う意味で言い出しにくいこともあると思います。身体的暴力ではやはり男性が強いですが、言葉の暴力となると女性が強い部分も出てくると思います。 男女平等と考えるのであれば「女性に対する暴力をなくす運動」も大事ですが、それだけでないことも頭に入れておくことはとても大事だと思います。</p> <p>○ホームページ、SNSで暴力をなくす運動を広めて行ってほしいです。</p> <p>○デートDVの学習会。毎年中学校や高校でやって欲しいです。</p> <p>○国・県作成のポスターを掲示・チラシの配架→継続をお願いしたいです。</p> <p>○啓発や研修などの取り組みと相談体制の整備、どちらも十分に行われていると思います。</p>		

基本目標	基本方向	掲載ページ
Ⅴ 性別にとらわれない多様な生き方の尊重	Ⅰ 性の多様性への理解促進	104～107
<p>パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の運用、市民啓発、当事者交流会と多面的に取り組まが行われているが、市民啓発については更なる工夫が必要では。</p> <p>○多様性を認め合う意識啓発の推進は、各小中学校で人権学習が実施されているので、多様な生き方を認め合う意識が向上していると思われる。福岡県の人権・同和教育の重点では、「多様性を認め合い、自他の人権を大切にする子どもの育成」が目標になっている。以前は、「多様性を認め合い」という目標は、入っていなかった。内容面では、「一人ひとりがかけがえのない存在として尊重される社会への支援」（多様性を認め合う社会）となっている。性の多様性への理解促進が学校では推進されている。古賀北中では、毎月1回「フリーファッションデー」があり、一人ひとりが自己決定した服装で登校し、お互いの違いを尊重し合っている。また産休に入る教師をクラスの子どもや職員が休暇に入る教職員を祝福している。生命と母体の保護の尊重意識が醸成されている。</p> <p>○子ども家庭センターの施策の成果のところで「男の子は何色、女の子は何色など固定観念について考えることができ、自分らしさを理解することができた」とありますがこれは、男の子は黒や青（例えばですが）を選んだということでしょうか？それとも男の子でも女の子でも何色を選んでも良いよね！というような結論となったのでしょうか？前者であれば多様性の理解とは少し違う気がします。</p> <p>○対象者への周知はもちろんです、一緒に歩いていく市民の皆さんにも周知できた方がより良く皆が過ごせると思います。</p> <p>○内容がとてもよくわかりました。とても有意義な取組だと思うので、今後も続けて欲しいです。</p> <p>○実施した事業は不明だが、人形遊びや教材を使用しながらの実施は、楽しさを交えて自然に学べるかとも思いました。</p> <p>○LGBTQについて学ぶ人権学習を全小中学校で実施→今の子どもたちは柔軟に多様性を受け入れられると思うが、まだ昭和世代の高齢者は抵抗ある人がいるように思う。</p> <p>○全国に先駆けて性の多様性への理解を示す行政としての取り組みがなされている事は、本当に素晴らしいと感じます。その行政の方向性に市民の意識や行動が伴うような事業の推進が図られるとさらに素晴らしいと思います。</p> <p>小中高大の教育機関の学校教育の中で、また、地域の住民活動の中でその行政の取り組みに呼応した活動が展開されるとより素晴らしいものになると感じます。</p> <p>○性的マイノリティ交流会の実施は、参加した人の相談できる心の居場所・交流の場所として安心でき、生きる力が湧いてくる場所となったのではないだろうか。</p> <p>○十分な取り組みができていると思います。</p> <p>○幼い頃から性の多様性について触れる・考えるのはとても良いことだと思います。</p> <p>○パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓の受付を開始して2組が制度を利用しているのは素晴らしいと思います。</p>		